

Event Guide

イベントガイド第5号

本紙では、地球一周の船旅がより充実したものとなるよう、おすすめの船内企画や旅に関するコラムなどを掲載したり、乗船者の皆さまを紹介する紙面です。日々の船内生活の充実にお役立てください。

この号では7月1日から7月14日までの情報についてお伝えします。

- 7月2日 メキシコ民族舞踊団パフォーマンステージ
レゲエサンセットバーベキュー
- 7月5日 モンテゴベイ
- 7月6日 セタイベント・日本文化紹介
- 7月7日 クリストバル
- 7月8日 パナマ運河通航
社交ダンスパーティー
- 7月10日 プンタレナス
- 7月12日 トロピカルパーティー
- 7月14日 マンサニージョ

イベント紹介

●7月2日 メキシコ民族舞踊団パフォーマンスショー

マンサニージョにあるNPO Casa Hogar Los Angelitos A.C 民族舞踊団のダンスプログラムのメンバーが乗船します。伝統的な舞踊にバレエの要素を加えた踊りを通して民俗文化を表現します。

●7月6日 セタイベント(7月7日は寄港日のため、6日に実施します)

短冊に願い事を書いて笹の葉につるしましょう。みなさまの願いが叶いますように。他にも、日本の文化を体験できる、けん玉や折り紙、お茶会もおこないます。

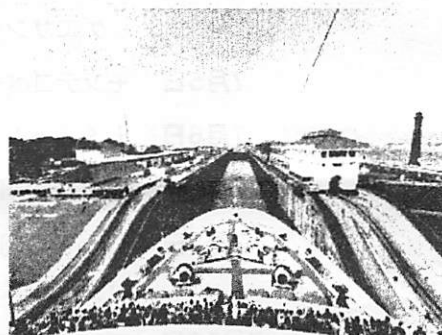
●7月12日 トロピカルパーティー

ラテンアメリカにちなんで、陽気なラテン音楽に合わせて体を揺らすひと時をどうぞ。この日だけの特別なドリンクも販売いたしますので、サルサダンスと共に楽しみください。

プログラムディレクター 鈴木隆之

見どころ満載、パナマ運河通航!

本船はいよいよ「世界二大運河」の一つ、パナマ運河を通航します。太平洋と大西洋をつなぐ重要な航路で、開通したことによりニューヨークとサンフランシスコ間の航路が約15,000kmも短縮されました。世界の物流の要として年間10,000隻以上の船が往来しています。今回はそんなパナマ運河の私なりの通航の楽しみ方をお伝えします。



①通航に9時間もかかる?

パナマ運河を通過できる大きさの上限を通称「パナマックス」と呼んでいます。パシフィックワールド号がパナマ運河を渡るには、岸壁ギリギリまで船を近づけたり、精密な技術を要するため、渡りきるまでにかかる時間は約9時間にも及びます。ぶつかるのではないかとひやひやしますが、その迫力さえも見所です。※岸壁には危険ですので、絶対に触れないようにして下さい。

②水のエレベーター

水路は閘門(こうもん)で仕切られ、ここに水を注水して水面の高さを調整しながら船を上昇・下降させます。まるで階段を昇るように高低差をクリアしていくのです。一つの場所で動画や写真を撮り続けていると、船の高さが変わっていく様子が分かります。※見学中は三脚を使用したり、長時間の占有はご遠慮ください。

③野鳥を見よう

パナマ運河は熱帯に位置しており、パナマ全土が熱帯性気候に属しています。オオハシをはじめとする野鳥が多数生息していますので、通航を見守りながら野鳥観察も楽しむこともできます。

クルーズならではの楽しみの一つ、パナマ運河。ぜひ、楽しみください!

企画チーム担当 ポワルヴェ・シル

Corazónで踊る～サルサが教えてくれた生き方～

私が初めてラテンアメリカ(以下、ラ米)を訪れたのは、カリブ海に面した国、ベネズエラでした。ラ米の中でもカリブ地域はひととき陽気で、明るく開放的な空気が漂っています。

そこで私を迎えてくれたのは、たとえどんなに辛いことがあっても、どんなに苦しい状況に置かれていても、人生を前向きに、心から楽しむ人たちとの出会いでした。そして、その出会いのそばにはいつも“サルサ”が流れていたのです。ラテンの人々にとって、ごく日常的な音楽であり、ダンスでもある“サルサ”。ステップもリズムも分からない私に、優しく「あなたのCorazón(心)で踊ればいいのよ」と声をかけてくれた女性がいました。その人が自由に踊る姿は、十何年経った今でも鮮明に心に残っています。

ところで、映画『Salsa』をご存じでしょうか？この作品は、主人公であるフランス人の天才ピアニスト、レミが、ラテンの魅力に心を奪われ、クラシックの道、つまり「ショパンを捨てて」サルサの世界に飛び込んでいく物語です。物語は、サルサ、そしてキューバの伝統音楽“ソン”の演奏にのせて展開していきます。アップテンポで明るいリズムに身を委ね、飾らず、ありのままの自分で情熱を表現する、“サルサ”とは、そんな生き方そのものを表した音楽だと思います。

きっと、私もレミも、ラテンアメリカの人々の“サルサ的な生き方”に魅せられたのでしょう。

クルーズディレクター 田村美和子

残り半周の過ごし方



Voyage120は折り返し地点までできました。乗船した頃は不安な気持ちを持たれていた方も、見慣れた景色、顔なじみの友人やスタッフ、クルーがいてくれる船内が安心できる場所になってきたのではないのでしょうか。

半周の思い出を様々な方に伺うと、「初めて社交ダンスをし、踊れるようになってきて楽しい」、「講演を聞いて視野が、もっと多方面から物事を見てみようと思った」などの声を聞き、新たな出会いや気づきがあったことを嬉しく思います。私も全7号のイベントガイドも第5号まで作成し終え、折り返し地点まで来た事を実感しています。発行される度に「次回も楽しみにしています」、「お疲れ様」という皆さまの言葉は私の励みになっています。

さて、残りの過ごし方の私なりの提案ですが、ぜひまだやっていないことをやってみてください。例えば、カルチャースクールは今からでも参加することが出来ます。オープンGETで英語を学んで、クルーと会話をしてみたり。TIME FOR PEACEの企画に参加して、「平和への一歩」を考えてみたり。出来ることはまだあります。そして、ゆったり海を眺めることもおすすめです。地域により海の色が異なっていたり、海洋生物が見えやすい場所もありますので、まだ見ぬ世界の海との出会いをお楽しみください。

イベントガイド担当 武田詩歩

参加者紹介



今回は、ピースボートに初めて乗船された芦部史郎(あしべしろう)さんをご紹介します。

〈どちらから来られましたか?〉

神奈川県横浜市からです。

〈乗船を決めたきっかけはありますか?〉

ネットで見えて一人でも参加しやすいと書いてあったので、説明会を聞きに行き、そのまま申し込みました。毎年冬には国内や海外でスキーを楽しんでいますが、たまにはゆったり海外旅行も良いなと思い、スキーズンとはずれる4月出港の地球一周を選びました。

〈寄港地での思い出はありますか?〉

終わってしまいましたが、オーバーランドツアーでフランスのパリとモン・サン・ミッシェルを訪れたことです。パリの街を歩いたことや、ホテルからエッフェル塔が見えてとても良かったですね。

〈船内は何をして過ごしていますか?〉

日中は体力が落ちないようにZUMBAやサルサなどに参加しており、夜はお酒を飲みながら生演奏を聴いてゆったり過ごすようにしています。

〈最後にメッセージをお願いします〉

もし、次に乗るならギリシャに行くピースボートクルーズに乗りたいですね。あと半分のクルーズも楽しみつつ、皆さんと良い旅ができますように。これからもよろしくお願いします。

イベントガイド担当 武田詩歩